

# 琉球大学学術リポジトリ

琉球諸語の喪失と活性化をめぐる言語イデオロギー  
ー言語バイオグラフィーの質的分析を通して

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学 公開日: 2022-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 安元, 悠子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017927">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017927</a>

様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

(仮) 「琉球諸語の喪失と活性化をめぐる言語イデオロギー  
- 言語バイオグラフィーの質的分析を通して」

琉球大学大学院

人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学籍番号

氏 名 安元 悠子

学位論文要旨（横書き楷書、ワープロ可、字数800字程度）

本研究は、琉球諸語から日本語標準語への言語シフトの過程の中でどのような言語イデオロギーが作用したのか、さらには近年琉球諸語の活性化について肯定的な風潮が高まっている中で、どのような言語イデオロギー的課題が存在するのかについて、個人の言語体験の事例分析をもとに論じた。

序章、第1章では、危機言語としての琉球諸語を概観したうえで琉球諸語の言語シフトに関連する学術的な視座について、分野を横断する形で多角的に整理し、本研究の位置付けを確認した。第2章では、琉球諸語の中でも周縁性の指標で認識される小島嶼からの「移動」を経験した琉球諸語話者の言語シフトの過程における内的体験を考察した。第3章では、言語継承に向き合う国語教育経験者の語りから、言語イデオロギー的なジレンマを整理した。第4章では、琉球諸語ニュースピーカーが対峙するジレンマについて、自己を研究対象として位置付けるオートエスノグラフィーという手法に拠りながら考察した。

最終的に、言語を喪失した当事者、そして活性化に向き合う当事者が、それぞれの言語レパートリーにおける「言語的力関係」を根底から見直し、自分自身が望む言語レパートリーを形作ることによって、支配の正当性となる言語ヘゲモニーに対抗しうる結論づけた。既存の言語イデオロギーを問い直し、個人が自己の言語レパートリーを再構築していくことは容易ではないが、琉球諸語の言語維持に前向きな方向性をもたらすには、必要不可欠なプロセスであると考えます。